

2026年9月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年5月13日

上場会社名 新日本製薬株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4931 URL <https://corporate.shinnihonseiyaku.co.jp>
 代表者（役職名）代表取締役社長CEO（氏名）後藤 孝洋
 問合せ先責任者（役職名）専務取締役COO（氏名）福原 光佳（TEL）092（720）5800
 半期報告書提出予定日 2026年5月15日 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有（投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2026年9月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年10月1日～2026年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年9月期中間期	20,517	1.2	2,311	△8.8	2,352	△7.2	1,619	73.0
2025年9月期中間期	20,282	3.2	2,533	22.0	2,534	21.3	935	△33.3

(注) 包括利益 2026年9月期中間期 1,444百万円（10.6%） 2025年9月期中間期 1,305百万円（△6.5%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年9月期中間期	76.51	—
2025年9月期中間期	44.03	43.97

(注) 2026年9月期中間期より表示方法の変更を行ったため、2025年9月期中間期の経常利益及び対前年中間期増減率につきましては、当該表示方法の変更を反映した組替え後の数値を記載しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年9月期中間期	28,169	23,233	82.5
2025年9月期	28,251	22,809	80.7

(参考) 自己資本 2026年9月期中間期 23,233百万円 2025年9月期 22,809百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年9月期	—	0.00	—	52.00	52.00
2026年9月期	—	0.00	—	—	—
2026年9月期(予想)	—	—	—	57.00	57.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年9月期の連結業績予想（2025年10月1日～2026年9月30日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	45,000	9.4	5,000	4.6	5,020	2.9	3,400	33.1	160.37

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 2026年9月期中間期より表示方法の変更を行ったため、経常利益の増減率につきましては、当該表示方法の変更を反映した組替え後の数値を用いて算出しております。

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
 新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年9月期中間期	21,855,200株	2025年9月期	21,855,200株
② 期末自己株式数	2026年9月期中間期	669,630株	2025年9月期	709,492株
③ 期中平均株式数 (中間期)	2026年9月期中間期	21,162,792株	2025年9月期中間期	21,255,378株

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法について)

当社は、2026年5月13日 (水) に機関投資家及びアナリスト向けの決算説明会をオンライン配信する予定です。この説明会で使用する決算補足説明資料は、TDnetで本日開示するとともに、当社ウェブサイトにも掲載しております。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	5
(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(表示方法の変更に関する注記)	7
(セグメント情報等の注記)	7
(企業結合等関係)	7

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続くとともに、訪日外国人客数が高水準で推移する等、緩やかな回復基調で推移しました。一方、物価上昇の長期化が家計に影響を及ぼす中、消費者の節約志向は継続しており、個人消費は一部に持ち直しの動きが見られるものの、慎重な消費行動が継続する状況となっております。また、国際情勢の不安定化や各国の政策動向等もあり、先行きは不透明な状況が続いております。

このような市場環境のもと、当社グループは『美と健康の「新しい」で、笑顔あふれる毎日をつくる。』というパーパスの実現に向けて、中期経営計画「Growth Next 2027」に基づき重点活動に取り組みました。

通信販売において、ヘルスケアの「Fun and Health」では、主力商品である「Slimore Coffee(スリモアコーヒー)」の新規顧客獲得が、継続して好調に推移したことを背景に投資を拡大した結果、増収となりました。また、新商品の「Slimore Coffee Latte(スリモアコーヒーラテ)」の投入により、顧客層の拡大が進んでおり、ブランド成長のさらなる加速を図っております。今後も、シリーズ拡充によりお客さまの選択肢を増やすことで、新規顧客獲得を推進してまいります。化粧品の「PERFECT ONE」では、競合の多いオールインワン市場にて、パーフェクトワン オールインワン美容液ジェルシリーズが累計販売実績9,000万個(※)を突破しました。一方、広告投資抑制の影響によりブランド売上高全体では減収の着地となりましたが、当社の強みであるデータベースマーケティングの強化により各種KPIが改善、LTVが向上し、定期顧客基盤の拡大が進みました。引き続きスピード感を持った商品開発を通じて新規顧客獲得の強化にも取り組んでまいります。「PERFECT ONE FOCUS」では、売上が計画に届かなかったものの、フェイスマスク大容量タイプの展開に加え、クレンジングバームのリニューアル等、商品ラインナップの拡充を進めており、いずれも高評価を獲得しております。商品開発スピードの向上に加え、新ラインや新カテゴリの展開による競争力強化を図り、今後の成長につなげてまいります。

卸販売においては、広告投資抑制や、課題であるセルアウトの伸び悩み等の影響により、計画を下回る着地となりました。こうした状況を踏まえ、セルアウトの強化に向けた主要取引先における店頭アクションの強化や、販促施策の検証を進めるとともに、タレントを起用したイベントを実施する等、ブランド認知の向上と新規顧客の創出をめざし、顧客接点の強化に取り組まれました。また、インバウンド対応においても、訪日客構成の変化に応じた販売体制の強化を推進しております。さらに、「PERFECT ONE FOCUS」では、新商品の投入やSKU拡充により店頭での存在感向上を図るとともに、展開店舗数の拡大を進めております。「Fun and Health」では、「Slimore Coffee(スリモアコーヒー)」の展開店舗数が着実に拡大し、ブランド認知の向上と売上拡大に寄与しました。今後も取扱店舗の拡大と販促強化を通じて、さらなる成長をめざしてまいります。「Wellness Food」においては、開発体制の強化および商品ラインナップの拡充に取り組まれました。また、コールセンターでのクロスセル提案やテレビの情報番組における商品の紹介、EC・店頭での販売活動を通じて、ブランド認知の向上にも取り組んでおります。

海外販売においては、これまで実施してきたテストマーケティングを踏まえた販促施策が奏功し、売上が着実に推移しました。米国では、化粧品の拡大が計画より遅延しましたが、成長市場であるヘルスケア領域での展開準備を進めております。また、アジアでは台湾を中心にプロモーション施策を開始、ECモールでの販売準備やASEAN地域でのテストマーケティングを継続しております。ベトナムにおいては、化粧品販売に向けた取り組みも着実に進んでおります。

(※) パーフェクトワン オールインワン美容液ジェルシリーズ累計販売実績2006年5月～2026年2月

(ラフィネ パーフェクトワンシリーズ、パーフェクトワンフォーカスシリーズ含む)

以上の結果、当中間連結会計期間の売上高は20,517百万円(前年同期比1.2%増)、営業利益は2,311百万円(前年同期比8.8%減)、経常利益は2,352百万円(前年同期比7.2%減)、親会社株主に帰属する中間純利益は1,619百万円(前年同期比73.0%増)となりました。

なお、当社グループの事業セグメントは化粧品、ヘルスケアに関わる商品の通信販売、卸販売及び海外販売であります。卸販売及び海外販売の全セグメントに占める割合が僅少であり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメントごとの記載を省略しております。

(2) 当中間期の財政状態の概況

当中間連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて、81百万円減少して28,169百万円となりました。これは主に、棚卸資産が278百万円、投資その他の資産が228百万円それぞれ増加した一方で、現金及び預金が391百万円、売掛金が125百万円それぞれ減少したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べて、505百万円減少して4,936百万円となりました。これは主に、未払法人税等が179百万円、賞与引当金が55百万円、流動負債のその他が170百万円それぞれ減少したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べて、424百万円増加して23,233百万円となりました。これは主に、その他有価証券評価差額金が186百万円減少した一方で、利益剰余金が519百万円増加したことによるものであります。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年9月30日)	当中間連結会計期間 (2026年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,118	17,726
売掛金	3,342	3,217
棚卸資産	2,133	2,412
その他	460	480
貸倒引当金	△33	△33
流動資産合計	24,020	23,802
固定資産		
有形固定資産	1,892	1,838
無形固定資産	506	467
投資その他の資産	1,832	2,060
固定資産合計	4,230	4,366
資産合計	28,251	28,169
負債の部		
流動負債		
買掛金	653	616
未払金	2,287	2,275
未払法人税等	949	770
賞与引当金	214	159
その他	756	585
流動負債合計	4,860	4,407
固定負債		
退職給付に係る負債	189	190
その他	391	338
固定負債合計	581	529
負債合計	5,442	4,936
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,158	4,158
資本剰余金	4,068	4,071
利益剰余金	15,554	16,074
自己株式	△1,363	△1,286
株主資本合計	22,418	23,017
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	378	191
為替換算調整勘定	3	17
退職給付に係る調整累計額	9	7
その他の包括利益累計額合計	391	216
純資産合計	22,809	23,233
負債純資産合計	28,251	28,169

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)
売上高	20,282	20,517
売上原価	3,969	4,117
売上総利益	16,313	16,400
販売費及び一般管理費	13,780	14,088
営業利益	2,533	2,311
営業外収益		
受取利息	3	10
受取配当金	0	0
受取賃貸料	6	6
投資損失引当金戻入額	—	46
為替差益	5	8
その他	11	17
営業外収益合計	27	90
営業外費用		
支払利息	0	0
投資有価証券評価損	1	44
投資損失引当金繰入額	5	—
情報セキュリティ対策費	4	—
貯蔵品売却損	9	0
その他	4	3
営業外費用合計	26	49
経常利益	2,534	2,352
特別損失		
減損損失	759	—
特別損失合計	759	—
税金等調整前中間純利益	1,775	2,352
法人税、住民税及び事業税	790	705
法人税等調整額	48	28
法人税等合計	839	733
中間純利益	935	1,619
親会社株主に帰属する中間純利益	935	1,619

中間連結包括利益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)
中間純利益	935	1,619
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	378	△186
為替換算調整勘定	△7	13
退職給付に係る調整額	△0	△1
その他の包括利益合計	369	△174
中間包括利益	1,305	1,444
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	1,305	1,444

(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(表示方法の変更に関する注記)

(中間連結損益計算書関係)

前中間連結会計期間において、独立掲記しておりました「特別損失」の「投資損失引当金繰入額」は、経営成績をより適切に表示するため、当中間連結会計期間より「営業外費用」に表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前中間連結会計期間の中間連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前中間連結会計期間の中間連結損益計算書において、「特別損失」に表示していた「投資損失引当金繰入額」5百万円は、「営業外費用」の「投資損失引当金繰入額」5百万円として組み替えております。

(セグメント情報等の注記)

当社グループの事業セグメントは化粧品、ヘルスケアに関わる商品の通信販売、卸販売及び海外販売であります。卸販売及び海外販売の全セグメントに占める割合が僅少であり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメントごとの記載を省略しております。

(企業結合等関係)

(共通支配下の取引等)

当社は、2025年8月5日開催の取締役会において、2025年10月1日を効力発生日として、当社を存続会社、当社の連結子会社である株式会社フラット・クラフト(以下「フラット・クラフト」といいます。)を消滅会社とする吸収合併(以下「本合併」といいます。)を決議いたしました。

1. 取引の概要

(1) 結合当事企業の名称及びその事業の内容

結合当事企業の名称 株式会社フラット・クラフト

事業の内容 食品の輸入、卸及び販売

(2) 企業結合日

2025年10月1日

(3) 企業結合の法的形式

当社を存続会社、フラット・クラフトを消滅会社とする吸収合併

(4) 結合後企業の名称

新日本製薬株式会社

(5) その他取引の概要に関する事項

当社は、パーパスである『美と健康の「新しい」で、笑顔あふれる毎日をつくる。』の実現に向け、中期経営計画「Growth Next 2027」の目標達成に向けた取り組みを推進しております。

この度、ヘルスケア事業を構成する完全子会社のフラット・クラフトを合併することで、ナレッジの共有によるシナジー効果の最大化に加え、経営資源の効率的な活用、及び迅速かつ柔軟な意思決定を可能とする体制強化を図り、中期経営計画の目標達成に向けた取り組みを一層加速してまいります。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引として処理しております。